

目次

日中社会学会大会 24 回大会にあたって ……p1	日中社会学会第 24 回大会プログラム ……p7
日中社会学会第 24 回大会をお受けする にあたって ……p2	開催校連絡先 ……p9
特別講演及びシンポジウム（1）紹介 ……p4	アクセスマップ ……p10
シンポジウム（2）紹介 ……p4	新入会員の声 ……p14
在外通信レポート ……p5	事務局からのお知らせ ……p14

■日中社会学会大会第 24 回大会にあ たって

陳立行

（日中社会学会会長・関西学院大学）

このたび立命館大学において、第 24 回大会を開催することとなりました。まずは関係者のご尽力に深い感謝の意を表したいと思います。

立命館大学での開催は今回で二度目になります。立命館大学で開催の運びとなりましたのは、関西圏在住会員が多数におよぶということだけではなく、昨年、次回開催学校を決定しなければならない段階では、今後、地震と原発の影響がどこまで続くのか見通しがたく、引き続き関西での開催が望まれたためでした。そのような事情のため、立命館大学の文先生に開催の要請をお願いしたところ、快く引き受けていただきました。

一昨年、私は前会長からバトンを受けて、中国研究だけではなく、比較研究を通じた中国、日本社会、さらに東アジア社会に潜まれたメカニズムの解明を図るという中期的目標を受け継ぎました。昨年的人类史上未

曾有の大災害は日本のみならず、全世界、特に近隣の中国の強い関心を引きつけております。四川大地震という大きな災害を経験した中国では、国境や人種を越えて、生命の尊重という普遍的価値に基づいた日中両国の相互理解と相互扶助の機運が高まりつつあります。そんな中、編集委員会より震災に関わる日中両国の研究者や専門家との座談会の開催が提案されました。本学会ではその提案の実現に向けてプロジェクトを立ち上げ、国際交流基金の知的交流会議プログラムの助成に申請しましたところ、幸運にも採択していただくことができました。なおこの助成に基づき、昨年度にはすでに三回の国際円卓会議を開催しております。

本年度は昨年度の成果を踏まえ、国際交流基金から「グローバリゼーション・インパクトに関する日中比較研究」というテーマで知的交流会議プログラムの助成も受けることができました。そこで今回の学会大会では、「歴史・社会・文化・人間とモダニティ」という国際シンポジウムを企画しました。今後、この取り組みを通じて、中国の研究ネットワークを生かして、多くの若手研究者を育

てつつ、世界に向け学会の発信力を高めることを目指しております。

日本では90年代半ばから2008年までに中国研究が盛んになり、特に経済分野において中国ブームが起こったほどです。しかしオリンピック後、そのブームが冷め始めてしまいました。ところが、中国では30年間の経済高度成長によってもたらされた社会問題、環境問題などが頻発するようになってきました。このような変化に対して、本学会大会準備委員会は大きな力を注いで本大会を企画しました。大会の自由報告には、中国社会的のホットイシューに関する研究が多く、優れたものが多く見受けられます。大会のシンポジウムでは家族が大きく変容している中で社会保障という緊急課題を取り上げています。これらの報告はグローバル化の波の中で激動している中国社会の脈動を把握するうえで不可欠のものであり、非常に充実したプログラムだと感じております。

これまで開催校の優れた中国研究者を特別講演者として招くことが本学会の慣例として続いてきました。今年度は立命館太平洋大学学長の是永駿先生にご講演を引き受けていただきました。私個人にとっては、是永先生は優れた中国文学研究者というだけではなく、29年前、大連赴日留学生予備校の日本語担任の先生として、私を日本語の世界に導いてくれた恩師でもあります。29年ぶりに再会することにとっても不安を感じていますが(日本語がまだ上達していないなあと言われるかも知れません)、「想像力と社会」という魅力的な題目のご講演を聞かせていただけることを、とても楽しみにしています。

グローバル化の波の中、激動の中国と、東日本大地震から立ち直ろうとしている日本は異なる課題に臨んでいます。両国とも歴史のターニング・ポイントに直面していると

思います。この時期に開催される第24回日中社会学会は新しい時代に向かって、素晴らしい知的貢献ができると確信しております。

■日中社会学会第24回大会をお受けするにあたって

文楚雄

(第24回大会実行委員長)

昨年の第23回大会開催直前に会長の陳立行先生から、2012年の第24回大会を立命館大学で受けてくれないかという打診があった。一瞬、どう答えたらいいか分からなかった。日中社会学会の年次大会は東西交替で開催するのが長年の慣習である。昨年度の第23回大会が関西学院大学で行われたので、2012年の第24回次大会は東日本で開催するのが自然の成り行きである。しかし、ご承知のように昨年3月11日に千年に一度の大地震・大津波が起きた。東日本は震災でとても引き受ける場所ではなかった。震災を支援しなければならない意味もあって、第24回大会は引き続き西日本で開催しなければならないことになった。立命館大学は、以前年次大会を引き受けたことがあるが、ベテランの先生が定年退職し、今はとても引き受ける状況にはない。しかし、震災被害に遭われた東日本の方々のことを思うと、とても断ることができない。そういう背景の下でお引き受けすることになったのである。

お引き受けした後に、開催校主催のシンポジウムはどういう内容で企画していくか、かなり悩んでいたが、幸い、陳会長、事務局長、担当理事などが様々な立場から、バックアップしてくださって、開催校主催のシンポジウムの企画ができた。

今回の開催校主催の特別講演とシンポジ

ウムは、学会の国際交流基金知的会議助成プログラムの一環として、「グローバリゼーション・インパクトの日中比較——歴史・社会・文化・人間とモダニティ」という国際シンポジウムを企画した。

21世紀はアジアの世紀といわれている。日中両国の社会変動の比較を通じて、西洋社会とは異なる東アジアでのモダニティの受容、モダニティと文化の混淆、モダニティの制度化に関する知見を整理しながら、グローバリゼーションとともに時間的・空間的な浸透を増大させているモダニティへの理解を深め、中国の研究者とともに東アジア社会を比較する視座を探る。

特別講演については、立命館太平洋大学学長、中国文学者の是永駿先生にお願いしたところ、快く引き受けていただき、「想像力と社会——文学の方法としての東アジア——」という題目で講演して下さることになっている。

その後のシンポジウムは、ベテラン研究者のパネリストと若手研究者のコメンテーターにより構成されている。パネリストとしては、中国国務院発展研究センター・社会開発部部長の林家彬先生と北京大学の王京先生、コメンテーターとしては新華社日本チャンネルの彭純様をお招きして、近代化への異なる道程を辿った日中社会に対する比較研究の視点、視座、尺度などについて議論していただき、意味深い知見が期待される。

昨年8月頃あたりから始まったのだろうか。中国では「傷不起」ということばが流行し始めた。「傷不起」そのことば自身はとくに新しいものでもなく、昔からあったことばである。日本語に訳すれば「傷付けることができない、傷付けられるのがもう嫌、傷付けられるのがもう耐えられない」といった意味だろうか。この「傷不起」は歌とともに大

流行した。「…… 傷不起真的傷不起、我想你想到昏天黒地、…… 我恨你恨你恨到心如血滴、傷不起真的傷不起 ……」などは歌詞である。歌詞のうまさ、メロディーの美しさ、歌手王麟の声の優しさが流行の原因かと思うが、その裏にはやはり中国の社会がある。中国の発展はここに来て様々な問題や矛盾にぶつかっており、新たな転換をしなければ、大変なことになる時期に来ている。多くの人々は、「これ以上傷付けられれば、もう我慢できない」という状況になっている。

「死不起」ということばも流行している。日本語に訳すれば「死ぬこともできない」といった意味だろうか。中国の物価上昇が大きな社会問題になっているのはご承知のこと、蛇足を加える必要はないが、物価の上昇が墓地にまで及んでいることにやはり驚いている。20万元、30万元と高騰していると言われている。庶民がとて手をつけられない価格なのだ。庶民にとっては、生きることも大変だが、死ぬこともできないのだ。中国はこのような社会に変化している。

他方、日本の社会も3.11震災後、大地震・大津波に対する防災基準の甘さや原発の安全管理など、様々な問題が露呈されている。

このように大きな転換期に差し掛かっているこのごろ、第24回大会を迎えて、日中社会についてアカデミックに大いに議論することを期待いたします。

京都は千年の都で、多くの世界文化遺産がある。京都は国際交流活発な都市でもあり、独自の1万人留学生受け入れの計画も立てている。ぜひ、初夏の京都へおいでやす!

■特別講演「想像力と社会——文学の方法としての東アジア——」及びシンポジウム（1）「21世紀東アジア社会を比較する視座」

開催校が主催する特別講演とシンポジウムについては、どういう内容で構成すればいいのか、かなり悩んでいました。会長の陳立行先生と意見交換したところ、やはり比較の視点からアジアの社会研究を深めていきたいと主張し、自分のネットワークなどを活用して応援してあげると言ってくれたので、ほっとしました。その後、テーマや人選などが具体化されてまいりました。

特別講演については、立命館アジア太平洋大学学長の是永駿先生にお願いしました。是永先生は中国文学とく詩歌についての研究には造詣が深く、『芒克詩集』の翻訳で第29回藤村記念歷程賞を受賞したことがあります。文学の研究手法や視点から東アジアを見ていくのも面白く、意味深い知見が期待されます。

シンポジウムについては、パネリストとして、中国国務院発展研究センター・社会開発部部長の林家彬先生と、北京大学の王京先生にお願いしました。林家彬先生は80年代に日本に留学し、東京大学で工学博士を取得した日本留学経験者です。地域経済発展についての研究は造詣が深く、「地域協調発展戦略研究」は1997年の中国発展賞一等賞を受賞したことがあります。王京先生は日中文化交流の研究に力が注がれ、日本の民俗学・伝承学の大家である柳田国男などについての研究が深いです。パネリストたちの高い知見が期待されます。

シンポジウムのコメンテーターについては、若手研究者を起用しました。新華社の彭純様はメディア現場の研究者です。ご承知の

ように新華社は中国政府系のメディアです。日本語による中国の社会などを報道するだけでなく、2011年について日本を専門的に報道していく新華網日本チャンネルも正式に開設されました。新華網が国名をつけたチャンネルを開設したのは初めてで、日本のニュース・情報を伝える能力がかなり向上しました。このような報道現場から来た研究者のリアリティーある知見が期待されます。

文責・文楚雄

（第24回大会実行委員長）

■シンポジウム（2）

「現代中国の福祉と家族」

現代中国の福祉と家族は、かつてない激変の渦中にあります。しかも家族と福祉は、「生命=生活(life)」の世代的継承という人間にとって最も根源的な営みであり、社会そのものの持続可能性に直結した基層的問題領域です。そこには、国家や行政の諸政策、インフォーマルな社会関係はもちろん、市場や産業、市民社会や生活の質、さらに医療や死生観といった諸要素までが深くかかわってきます。個の自立にとどまらない世代的継承・種の再生産を視野に収め、しかも単なる伝統(孝など)への回帰とも、「近代化・市場化」とも異なる複雑な様相の中に、グローバリズムとチャイニーゼネスが錯綜しているように思われます。

中国と日本に関する専門学会でありながら、同時に多様な分野・領域の研究者が集っている日中社会学会だからこそもあるような越境的視野の中で、「現代中国の福祉と家族」を論じることができれば、福祉・家族等の専門学会での議論とは異なるユニークな知的地平を開拓できるのではないかと考え

ます。

皆さんの積極的なご参加をよろしく願います。

文責・浅野慎一(神戸大学)

■新連載 在外通信レポート

丹波秀夫

蘭州理工大学外国語学院日本語学科

■自己紹介

日中社会学会の皆様、はじめまして。この2月から中国甘粛省の蘭州理工大学外国語学院に参りました、丹波秀夫(たんばひで)と申します。“はじめまして”とは申しましたが、2011年関西学院大学での第23回大会には少しだけ参加をさせて頂きましたので、そちらでご挨拶させて頂いた先生方もいらっしゃるかと存じます。その節は、当方いわゆる“一見さん”であるにも関わらず、中村則弘先生主催の“夜の学会活動”(要するに懇親会の二次会です)にまで参加をさせて頂き、まことにありがとうございました。大阪の新梅田食道街の風情あるお店でお聞かせ頂いた先生方の話題は、大変多岐にわたり、また造詣深く、初めてお聞きする内容に興味は尽きませんでした。

社会学関連のお話を初めてお聞きする…と申しますのも、当方は大学学部時代から心理学的ストレス理論に基づいた心理学研究にもっぱら従事しており、博士課程を出た後は大阪の(社)国際経済労働研究所(社会心理研究事業部)にて多くの国内企業の皆さんと共同研究プロジェクトをさせて頂いておりました。これらの事業に携わる中で、国内の有名企業の事業場をいくつも訪問させて頂いた経験はあるものの、主に従業員の意識調査を通じた組織改善活動・運動の推進を担当させて頂いていたため、当方は、キャリア

上は学歴的にも職歴的にも純粋に心理学畑の人間なのです。

■本レポートについて

さて、そんな当方ですが、ひょんなご縁から、早稲田大学の池本淳一先生にご紹介を頂きまして、本年はるばる中国にやってきました(ちなみに出身は東京で、大阪では4年間仕事をしておりました)。しかし、ここ蘭州に参ったのはもっぱら研究活動目的であるため、恥ずかしながら中国に関して特別な知識的、なかんずく経験的な前提があるわけではありません(中国語もまったくわかりません…学部時代の第二外国語は独語)。中国では一般的といわれる“おしりパッキズボン”(学会員の方でご存知ない方はいらっしやらないでしょうが、中国の幼児のズボンはおしりの割れ目にそって大きなスリットが入っていて、そこから自由自在に大小の排泄が可能!)を見かけてしばし盛り上がるしまうほどです。

ですが、そのような恥ずかしい事情を僭越ながら逆手に取らせて頂きまして、本レポートでは、当方が初めて経験した“中国”について、びっくりしたことや、感動したこと、考えたことなどをぼちぼちとお話していきたいと思っています。もちろん、当方が直接的に経験できることは限られていますから、こちらでお話することはあくまでも限定的なサンプルに基づく“よしなしごと”と受け止めて頂ければと思いますし、的外れな内容があれば是非ご指摘を頂ければとも思っています。当方のレポートが少しでも皆様の活動の一助となれば幸甚に存じます。

また、せっかくですから、その中に心理学的な観点からの考察なども絡めていけたらいいなあ…とも思っております。例えば“メンツ”は、中国の人たちの行動を規定するか

なり重要な心理的ファクターのように聞きます。中国語では「面子」(miànzi)と書き、関連する表現も多数ある(それだけ社会的に重要となる場面が多い)ということですから、心理学的な興味を非常にそそられます。他にも、教員(日本語講師)をさせて頂いている関係から、主に学生たちのモチベーション(動機づけ)などにも関心があります。日本語を学ぼうとした、あるいは学び続けるモチベーションを維持・促進することは、中国の人々の“グッとくる”ポイントや前提となっている価値観を理解することに繋がるでしょうし、それらに配慮した指導ができれば、担当学生のキャリア形成にも一役買うことができるのではと思っています。当方の力量でどこまで深掘りができるかはわかりませんが、せっかく頂いた機会でもありますので、そんなことにもチャレンジしてみたいなと思っている次第です。

■最近、びっくりしたこと

とはいえ、しばらくはカルチャーショックについての話題を書きたいと思っています。先日、蘭州理工大学に所属するために、大学が提携している銀行で給与振込用の口座を作る必要がありました。これも中国に来てびっくりしたことではありますが、学生達は教員に対してとても親切にしてくれ、微に入り細に入り、労を惜しまずに手伝ってくれます。口座を作る際にも、学生がつきっきりで手続きを手伝ってくれ、多少(30分程度)

時間はかかったものの、当方の口座はすんなり作ることができました。しかし、当方の妻(当方と同じく日本語講師として帯同しております)の口座を作ろうとした際に、“事件”はおきました。

先方の窓口担当者がパスポートから作成した書類の誕生日が間違っていたので、それを指摘した上で続く手続きをしてもらっているとき、ふいに担当者が険しい表情をしたかと思うと、「あなたのパスポート番号で既に口座が作られているわ…」と神妙に言いました(中国語なので当方らは学生の通訳を介して聞いています)。当方の知る限り、当方妻には中国で口座を開設する機会などはこれまでの人生では無かったはずですから、いきおい「まさかパスポート情報が誰かに抜き取られており、マネーロンダリングか何かに悪用されているのか!？」と思って、血の気が引きました。(謎の国際組織が何らかの方法で一般人のパスポート情報を悪用して外国の口座を勝手に作り、良からぬビジネスを通じて得た資金をその口座に一時的に保管、ほとぼりが冷めた頃に引き出している…?)

しかし、よくよく考えてみると、これからその口座を頻繁に活用する我々相手にそんなことを仕掛けてもすぐに足がついてしまうのでは?とも思います(次回へ続く)。

※お知らせ

伊藤麻沙子会員による在外通信は今回休載です。

日中社会学会第24回大会プログラム

開催日：2012年6月2日（土）・6月3日（日）

会場：立命館大学（衣笠キャンパス・創思館）

（注）プログラムは一部変更となる可能性があります。

当日会場にて配布される資料でご確認ください。

第1日 6月2日（土）

「グローバル化・インパクトの日中比較研究—歴史・社会・文化・人間とモダニティー」
国際交流基金知的交流会議助成プログラム

12:00～ 受付

13:00～13:08 開会式

（創思館カンファレンスルーム）

- ・開催校挨拶 有賀郁敏（立命館大学産業社会学部長）
- ・会長挨拶 陳立行（関西学院大学）
- ・司会 文楚雄（立命館大学）

13:10～14:40 特別講演

（創思館カンファレンスルーム）

講演者：是永駿 立命館大学副総長・立命館太平洋大学学長

題目：「想像力と社会—文学の方法としての東アジア—」

司会：黒田由彦（名古屋大学）

14:50～16:40 シンポジウム(1)

（創思館カンファレンスルーム）

「21世紀東アジア社会を比較する視座」

司会 中村則弘（愛媛大学）

パネリスト：

- ・林家彬（中国国务院発展研究センター・社会発展研究部部長）
「日中両国の経済高度成長期の社会比較」
- ・王京（北京大学日本語学部・講師） 「民俗学の可能性」
- ・浅野慎一（神戸大学）「民族解放・国民主権を超えて—世界システムと東アジア」
- ・首藤明和（兵庫教育大学） 「ハイブリッドモダンと日中比較」

コメンテーター：

- ・彭純（新華社・日本チャンネル）

- ・池本淳一（早稲田大学）
- ・中村 圭（同志社大学）

16:50～17:40 総会 (創思館カンファレンスルーム)
 18:00～20:00 懇親会 (立命館大学食堂)
 参加費：4000円 (一般)
 1500円 (学生)

第2日 6月3日(日)

8:45～ 受付

9:00～10:00 分科会

分科会 A: 高齢者の生活と福祉 (創思館 403.404 プロジェクト室)

■徐 玲 (立命館大学)

「中国都市部の高齢者の社会的養老—国有企業定年退職者を中心に—」

■劉 念 (神戸大学)

「中国都市部における高齢者の生活と福祉に関する研究

—西安市での調査を事例に—」

分科会 B: 農村

(創思館 405.406 プロジェクト室)

■林 梅 (関西学院大学)

「村民委員選挙から見る村民自治—中国東北地域の朝鮮族村を事例に—」

■許 燕華 (京都大学)

「中国朝鮮族の移動と送出母村に関する一考察」

10:10～12:10 分科会

分科会 C: 文化・価値

(創思館 403.404 プロジェクト室)

■陳 肅肅 (流通経済大学)

「モード化する衣服に関する研究—中国大連開発区の事例において—」

■白薩日娜 (島根県立大学)

「新中国における「達斡爾族」の現代的形成と「民族文化」の創出について」

■劉 楠 (お茶の水女子大学)

「現代中国における親の文化的資本が子どもの学業成績に与える影響

—再生産理論の資源説を用いて—」

■石井 健一 (筑波大学)

「中国における物質主義価値観—広州でのアンケート調査から—」

分科会 D : 国際移動と結婚

(創思館 405.406 プロジェクト室)

■葛 蟬勤 (淑徳大学)

「中国上海市出身の研修・技能実習生の来日就労行動にかんする考察

—キャリア形成と家族ネットワークという視点より—」

■張 慧婧 (名古屋大学)

「日本華僑コミュニティ構築への新たな視点—名古屋を事例に」

■郝 洪芳 (京都大学)

「東アジアにおける国際結婚について—男性側の結婚動機を中心に」

■賽漢卓娜 (東京外国語大学)

「中国朝鮮族女性の国際結婚における移動、階層分化とエスニシティ (仮)」

13 : 30~16 : 50 シンポジウム (2) 「現代中国の福祉と家族」

(創思館カンファレンスルーム)

司会 浅野慎一(神戸大学)・根橋正一(流通経済大学)

パネリスト

王文亮(金城学院大学)「中国の高齢者福祉---課題と対策」

施利平(明治大学)「都市化と世代間関係---中国浙江省一農村の事例研究から」

周知(寧波大学)「宗教社会学からみた家族と福祉---キリスト教を中心に」

コメンテーター

RAJKAI Zsombor Tibor(立命館大学国際関係学部)

郭芳(同志社大学・院)

16 : 50~17 : 00 閉会のあいさつ

(創思館カンファレンスルーム)

大会担当理事 根橋正一(流通経済大学)・浅野慎一(神戸大学)

大会実行委員長 文楚雄(立命館大学)

■開催校の連絡先

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学産業社会学部 (衣笠キャンパス)

文楚雄 研究室

メールアドレス : wen-chux@ss.ritsumeit.ac.jp

電話 : 075-466-3132 (研究室直通)、075-465-8144 (衣笠キャンパスインフォメーション)

075-465-8184 (産業社会学部事務室)

Fax : 075-465-8196 (産業社会学部事務室)

■懇親会へのご参加をお誘いいたします。

日 時：6月2日 18:00-20:00

場 所：立命館大学 末川会館カルム

参加費：4000円（一般）

1500円（学生）

■大会出欠確認のお願い

同封の葉書にて、大会出欠のご予定をお知らせください。お手数をおかけいたしますが、50円切手をご用意いただき返送をお願いいたします。開催校の準備のため、5月18日（金）までに投函をお願いいたします。

■立命館大学キャンパスへの交通アクセス（下図参照）

京都駅や三条京阪駅からバスを利用される場合、交通渋滞などで30分以上かかる場合があります。

■会場：衣笠キャンパス創思館（下図参照）

地図上24番の建物が会場となります。正門から入ってまもなく校内のバスプールに着きます。そのそばの半円形の建物が会場となります。

■宿泊施設

残念ながら大学から徒歩圏内の宿泊施設が少ないです。バスなどの利用になります。大学近くの金閣寺近辺、阪急電鉄西院駅・四条大宮駅近辺、四条河原町祇園近辺、JR京都駅近辺には、宿泊施設が多数ございます。ありすぎてなかなか特定できないので、各自でご予約していただきたいです。京都は観光の都市なので、修学旅行生や国際会議などで、時々残室がわずかの場合があります。

■ アクセスマップ



JR・近鉄 京都駅 (烏丸中央口)	京都市バス 京都駅前	市バス 50 (京都駅B2のりば) [※] 快速 205 (京都駅B3のりば)	立命館大学前(終点)	
		約35分		
	市バス 205 (京都駅B3のりば)	衣笠校前	徒歩 約10分	
京都市バス 京都駅前	JRバス 高雄・京北線 (京都駅JR3番のりば)	立命館大学前		
	約30分			
	市バス 205	衣笠校前	徒歩 約10分	
阪急 西院駅	京都市バス 西大路四条	約20分	衣笠校前	徒歩 約10分
		市バス 快速202 [※] 快速205 [※]	立命館大学前(終点)	
		約20分		
	市バス 26	等持院道	徒歩 約10分	
西京福 西院駅	京福電鉄 嵐山本線・北野線	龍安寺駅	徒歩 約6分	
	約25分	等持院駅	徒歩 約6分	
阪急 大宮駅	京都市バス 四条大宮	市バス 55	立命館大学前(終点)	
京阪 三条駅	京都市バス 三条京阪前	市バス 15	立命館大学前(終点)	
		約30分		
		市バス 59	立命館大学前	
JR・地下鉄 二条駅	京都市バス 二条駅前	市バス 15 55	立命館大学前(終点)	
		約15分		
JR 円町駅	京都市バス 西ノ京円町	市バス 15 快速202 [※] 快速205 [※]	立命館大学前(終点)	
		約10分		
		市バス 204 205	衣笠校前	徒歩 約10分

※土日・運休

立命館大学
衣笠キャンパス



会場の創思館は 正門から近く、キャンパス地図の24

■事務局からのお知らせ

□事務局からのお願い

本学会では、メーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。

登録がまだの方、また、メールアドレスに変更のあった方は、事務局までご連絡ください。

また会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

□次号ニューズレターについて

大会直前号以外は本学会HPにパスワード付きでニューズレターを掲載しています。

(個人情報を削除したものは、広報用に、従来通りパスワード不要で掲載しています。)

次号は10月発行予定です。発行の際はメールマガジンでお知らせいたします。

パスワードがご不明の方は、事務局までお問い合わせください。

日中社会学会ニューズレター No.65

編 集：池本 淳一

(早稲田大学)

発 行：日中社会学会事務局

〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学・南裕子研究室
info#japan-china-sociology.org
yminami#econ.hit-u.ac.jp
(メールアドレスは#を@に変えて
下さい)
tel: 042-580-8810 (研究室直通)
fax: 042-580-8799 (共同研究室の

ため南宛を明記してください)
○日中社会学会・郵便口座
口座記号番号 : 00140-9-161801
加入者名 : 日中社会学会
○日中社会学会・公式 HP
<http://www.japan-china-sociology.org/>
発行日 : 2012 年 5 月